

スタジアム整備に関する住民説明会 質疑応答

日 付：令和7年7月29日(火) 19:00~20:00

場 所：沖縄県体協スポーツ会館 1階会議室

参加人数：66名（居住地域・年代内訳は別添）

（参加マスコミ：NHK、OTV、RBC、琉球新報、沖縄タイムス）

説明者：沖縄県文化観光スポーツ部 MICE推進課 與座課長、小島班長
スポーツ振興課 宮城課長、崎原班長
那覇市都市みらい部 都市計画課 まちづくり推進グループ
屋宜グループ長、廣岡主幹

質疑応答（○参加者 ●説明者）

【一人目】

○3点お聞きしたい

- ①将来性や利用度合いを考えると、全国的な事例などから、ドーム型スタジアムとすべきと考えるが、オープン型スタジアムの計画に至った考え。
 - ②那覇軍港返還や漫湖公園の開発を踏まえた計画としているか。
 - ③②において、那覇市と連携しているか。
- Jリーグスタジアム基準を充足するためピッチを天然芝とすることから、日光や風が重要であり、オープン型のスタジアムの計画としている。
 - 那覇軍港については、返還時期を見極めることが難しく、現時点で関連する計画としていないが、しっかりとスタジアムを作ることによって、軍港が返還されたときに活用されるようなスタジアム計画としたい。
 - 漫湖公園との連携については、那覇市との連携の質問にもつながるが、賑わいを創出するという観点で、将来的に奥武山公園全体や河川空間に展開していく認識しており、隣接する漫湖公園も関連する可能性はあることから、今後那覇市と連携して検討を進めていくことになる。
- 各都道府県の状況、将来の展開、観客人数、駐車場の問題を見据えた場合、オープン型を作る利点が見えない。駐車場については、現実的に高層での計画や地下の活用を考えないと、パンクすると思われる。立体駐車場は地上・地下何階建てが可能かなどの具体的な計画をお聞きしたい。また、漫湖公園の連携についても、オープンスタジアムとなると、那覇軍港からの風を考えると、将来問題を起こす気がしている。もう少し具体的に計画を示していただければ、皆にもわかりやすいと思われる。
- スタジアムの形状については、天然芝である点だけでなく、公共で作るスタジアムであるため、県民・地域住民が使いやすいという点を目指している。そのため、他のエリアとの繋がりを意識してオープンにて計画している。
 - 高層の件については、公園内の施設であることから制限したいと考えている。地

下構造については、セルラースタジアムで杭が必要となっていることから、地盤条件が厳しいと思われる。また、事業費の観点からも適切な計画としていきたい。

【二人目】

- 工事となると1年以上かかると思うが、工事中の近隣施設、既存イベントへの影響、完了後の近隣施設の影響について伺いたい。
- 既存イベントについては、スタジアムが整備されることにより、やり方が現在と変わるという観点から影響はある。那覇市と連携して対応を検討していきたい。また、工事中の影響については、イベント開催時や年末年始の際には工事を一部ストップして人の流れを確保するなど、関係者と意見交換し、事業者募集の条件として示す必要があると考えている。
- この件については、相談してもらいながら進めていく理解でよいのか。
- そのとおりである。特に直接影響を受ける方々には個別でも確認しながら進めていきたい。

【三人目】

- 奥武山の地域に住んでいる。用途制限の緩和を行うということだが、現在の第一種中高層住民専用地域の緩和により、周辺にパチンコ屋やホテル等が建てられるようになり、住民目線で現在の静かな環境が侵される恐れが無いのか懸念している。また、現行の向かいの軍港地域については、商業地域となっているため、更ににぎやかになっていくのかどうか気になっている。住民が300人前後いるため、憂慮している。駐車場についても、立体駐車場の計画があったが、出入口が鳥居側の1箇所しかなく、既に瞬間風速（イベント時）でパンクしている。こちらについても方針をお伺いしたい。
- 今回の用途緩和については、運動公園内での用途上は観覧場と表現されるスタジアムや一定規模の飲食・物販施設に用途を限定し、遊技場等の建設はできないような緩和の方法を那覇市と協力して取り組んでいる。
- 渋滞については、公共交通の活用やパークアンドランドの活用の促進、賑わい施設での滞留による退場の時差を生み出すことによる人流の分散について取り組んでいきたいと考えている。
- セルラースタジアム整備の際は、工事中のダンプの往来も多かったことから、工事車両についても配慮をお願いしたい。

【四人目】

- 音に対する規制はどうなっているか。現状、まつりは年間で数日、プロ野球は年間1～2試合での開催だが、プロサッカーとなると隔週で騒音が発生するのではないか。
- Jリーグの公式戦は年間19試合であり、また、野球と違ってサッカーはある程度

決まった時間で終わるものと想定している。そのような利用状況でも、当然、事業者へは住宅地が隣接しているところに配慮した設計を求めていく予定である。

○現時点で具体的な規制等は考えていないのか。

●現時点では、運営時の具体的な規制はまだ検討していない。しかし、時間帯の規制については、セルラースタジアムでのプロ野球開催時と同様となることを想定している。

【五人目】

○利用者としての意見だが、段階整備というのは、こういったスケジュールでいつ最終形へ完成予定であるのか。沖縄の日光は厳しく、サイドスタンドの屋根がないと、観戦環境から、子どもの熱中症の懸念がある。また、県外のファンも雨に打たれながら観戦をすることになり、整備の目的・理想と離れてしまうと考えている。そのため、音への対策の観点からも当初からゴール裏に屋根をかけるような計画を検討してもいいのではないか。

●サイドスタンドで応援する方々が利用する点は認識しているが、スタンドの整備方法を含めコストについても公共事業として一定程度の配慮が必要となる。そことのバランスをみながら、当初整備では一旦この1万人規模で進めさせて頂いて、集客の状況や社会情勢等を考慮して2万人規模に段階的に整備する計画としている。段階的な整備に向けては、色々な意見を伺いながら継続的に取り組んでいきたらと考えている。

○具体的な段階整備時期については。

●段階整備時期の目安としているのは、大規模修繕時期となる15年程度である。

○提示された図のようにゴール裏が吹き抜けのように整備した場合、有料イベントでの活用を考えたら、毎回仕切りを立てたりする必要がある。

●当初整備から、利用料金をとるようなイベントへの活用に対応するような計画とする前提である。あくまで提示した図はイメージ図であり、沖縄らしさや、一般県民が使いやすいようなイメージとして作成した。運営者の観点から当初整備においても、両サイドもある程度高さを持った形で外から見えないようにする、また、興行時や夜間の管理上、時間によって開閉するゲートが設置されることを想定している。

【六人目】

○先ほど駐車場の件があったが、当該駐車場は出入口が園内に2つしかない。出入口を増設するようなインフラの計画はあるか。現状でも産業まつり等のイベント時には渋滞をまねいている。

●インフラ自体の改善の計画は現状ない。ただし、スタジアムに関していうと、付帯施設やオープンスペースを活用して、人がたたずむことで退場の時差を生むよ

うなソフト対策を検討していきたい。

- 人の動きは不規則なため、机上の計算だけではわからない部分がある。駐車場については、大変迷惑を被っている。スタジアムを作るのに渋滞対策の検討が抜けいていると感じているため、そこを検討してもらいたい。
- 駐車場については、増やすと車が集中して渋滞を招く恐れがあるため、できるだけ車以外のアクセス方法を取って頂くことが重要と認識している。また、恐らくイベント時等は、駐車場の一定の範囲は関係者駐車場にする必要があると考えている。そのため、ソフト的な対策を含めて検討していきたい。

【七人目】

- 屋根の件について、最初からサイドスタンドを整備するにはコストがという話があったが、他のＪリーグスタジアムの事例では、県・市の予算以外でも、クラウドファンディング、ふるさと納税、企業からの寄付といったものを活用している。特に沖縄県民は沖縄に愛着があるため、ふるさと納税の寄付を上手く活用しながら、最初から屋根のある形で整備すれば、観客としては望ましいと考えている。このような資金集めの計画があるのかについてお伺いしたい。
- 資金集めに関しては、企業版ふるさと納税や個人寄付、色々な方法があることは認識しており、それらをしっかりと活用していきたいと考えている。しかし、他のスタジアムの事例では、寄付の集まりについてはチームのカテゴリーやそれぞれの地域性で非常に差がある。県としては、寄付等の財源を活用しながら、段階的なスタジアム整備をしっかりと取り組んで行きたいと考えている。

【八人目】

- 先ほどの話と重複する部分があるが、駐車場のキャパシティよりも、鳥居側出入口での入出庫の問題を懸念している。プロ野球の試合以外でも、中体連やインターハイ等のイベント時では、鳥居側の出入り口の渋滞が悲惨な状況である。キャパシティに対しての出入口が足りていない。出入口を増やす等の対策を考慮していただきたい。
- 集客施設の整備にあたって、渋滞問題は必ず発生すると認識している。ただ、特に那覇市においては土地利用の状況もあり、対応が難しいことが多いという問題点がある。そういった中で土地が限られている状況も踏まえながら、地域の方々がそういった課題におかれている状況であるという認識をして、基本的にまずはソフト的な対応から検討していきたい。

以上

別添

年代 \ 居住地域	奥武山	鏡原	壺川	山下	その他市内	その他市外	合計
10代	0	0	0	0	0	0	0
20代	1	0	0	0	1	2	4
30代	1	1	0	1	4	4	11
40代	3	0	1	0	11	4	19
50代	9	0	1	0	3	5	18
60代以上	6	1	1	1	4	1	14
合計	20	2	3	2	23	16	66